

第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果

大橋川周辺地域のまちづくりに対する想い・意見
「意見一覧」

[議論の経過]

平成18年 2月21日(火)	第2回大橋川周辺まちづくり検討委員会 ・事務局が提案したものを審議する形ではなく、 委員会が主体となって計画内容を検討していく 形で議論を進めていくことを決定 ・ワークショップにて97の意見が出される
平成18年 4月19日(水)	第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会・景観専門 委員会(合同開催) ・先例地視察をふまえ、ワークショップにて94 の意見が追加される
平成18年 5月24日(水)	第2回作業部会 ・出された各意見に対して行政・河川管理者のコ メントを付け、作業部会にて提示、説明
平成18年 7月 5日(水)	第4回大橋川周辺まちづくり検討委員会 ・まちづくり検討委員会にて提示、説明

第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果 【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

No	意見ID	出された回数	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
1	A-1	第2回	A 松江の風情	大谷	近世の歴史を感じさせるたずまい	それは位置的なものとして意識したものではなくて、松江らしさとは何かというイメージで書いたものです。あまり古代の意味ではなくて、城下町のいわゆる江戸期以降ぐらいの佇まいみたいなものを彷彿させるような松江らしさが一つあるんじゃないかなということを書きました。	上流	城下町の歴史を感じさせる佇まいを大切に	松江市都市マスタープランでは「松江らしさ」として「守るべき松江の魅力」「回復すべき松江らしさ」「更新すべき松江らしさ」「創造すべきもの・楽しさ」の4つの要素を定めており、城下町の古いまちなみを「守るべき松江の魅力」と位置付け、まちづくりを進めていくうえで基本となると考えています。	資料4(1)(2)(3)(4)(5)(6)
2	A-2	第2回	A 松江の風情	泉	江戸時代以降の歴史・文化の維持		上流	城のまわりを中心に、江戸時代以降の歴史・文化を維持する		
3	A-3	第2回	A 松江の風情	岸井	城下町の地図と重ねて、都市の全体像を理解して取り組もう		上流	城下町の地図と重ねて、都市の全体像を理解して取り組もう		
4	A-4	第2回	A 松江の風情	岸井	城との関係を意識できるように		上流	城との関係を意識できるように		
5	A-5	第2回	A 松江の風情	林	松江開府400年の歴史を残すべきである		上流(大橋周辺)	松江開府400年の歴史を持つまちを残すべき		
6	A-6	第2回	A 松江の風情	林	松江夜曲の面影を残してほしい	松江夜曲というのは、最近ほとんど歌われませんが、大変有名な方の作詩作曲で、「松江大橋唐金擬宝珠、なぜに忘れぬ、忘れぬ、桜、春雨、相合い傘で、君と眺めた嫁が島・・・」という、大変良い歌なんです。この唐金擬宝珠といったような、現在の松江のまちの風情を残してほしいなと思います。	上流(大橋周辺)	松江夜曲に歌われるような大橋界隈の面影と風情を残してほしい		
				林	大橋川の風情を大切に	(どんなときに風情を感じるかという問いに対して)晴れても雨でも全てですね。これはもうラフカディオ・ハーンという言葉にも、霧に煙る松江大橋は感動的なものだという言葉がありましたね。だから、松江大橋は源助さんという人柱まで埋めて作った橋なんですけども、その歴史を大事に残さないと。松江の宝だと思いますよ。(松江らしさをまちづくりとか河川整備にどう活かすかというのは、とても難しいことですよ。というコメントに対して)ですから、あるものをいかに守るかということだと思います。				
7	A-7	第2回	A 松江の風情	木幡	現状をできるだけいじらない		上流	上流左岸の雰囲気を感じただけ残す		
8	A-8	第2回	A 松江の風情	皆美	松江大橋は現状のままであってほしい	今日頂いた景観専門委員会の報告で、松江大橋を中心とした北側の歴史・伝統を感じさせる区域という報告がありますね。観光的にも、松江の生活からも、松江大橋というのはへそみたいなものでして、その存在は非常に大きいと思います。ですから、できれば現状のままであってほしいというふうな、個人的な思いなんです。	上流(大橋)	松江大橋の存在は非常に大きく、できれば現状のままであってほしい	松江大橋は、計画洪水水位に対して必要な桁下高が確保できていません。このため、洪水時に橋桁や橋脚に流下物が引っかかり堤体へ危険を及ぼしたり、流れを阻害する恐れがあります。また、拡幅により橋長が不足します。したがって、架け替える必要がありますが、大橋は市民のみなさんや観光客から親しまれ愛されてきた橋ですので、架け替えにあたっては、本委員会や地域の皆様の意見を踏まえ、松江のまちに相応しいものとなるよう景観専門委員会で検討を進めていきます。なお、今後、昭和55年に建設省出雲工事事務所が設置した「松江大橋の歴史に関する研究会」の報告等も参考に議論を深めていただきたいと考えています。	資料4(4)
9	A-9	第2回	A 松江の風情	大谷	松江大橋は大事にしたい	松江らしさとはどんなものなのかなということ、やはり大橋は松江の象徴的な橋であるかなというふうに思いますので、その佇まいといいますが、それはやっぱり何らかの形で大事にしなければならぬのかなというふうに思います。	上流(大橋)	大橋は松江の象徴的な橋であるので、大事にしなければならぬ		
10	A-10	第2回	A 松江の風情	林	松江大橋(現在の)の歴史を残すこと(はりまや橋の事例)	(どんなときに風情を感じるかという問いに対して)晴れても雨でも全てですね。これはもうラフカディオ・ハーンという言葉にも、霧に煙る松江大橋は感動的なものだという言葉がありましたね。だから、松江大橋は源助さんという人柱まで埋めて作った橋なんですけども、その歴史を大事に残さないと。松江の宝だと思いますよ。例えば高知のはりまや橋なんて何も無いですけど、名前だけで全国から人が行くんですよ。行ってがっかりしませんがね。松江大橋の景観というのは有名で、大事なものではないでしょうか。	上流(大橋)	現在の大橋は松江の宝であり、残すべきである		
11	B-1	第2回	B 歴史・文化・風土・生活	有光	生活と水のかかわりの保全(多様な)		全体	生活と水の多様な関わりの保全	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	

第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果 【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

No	意見ID	出された回	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
12	B-2	第2回	B 歴史・文化・風土・生活	布野	治水対策の上、1945年前後の姿に戻す(古事記の時代とは言わないが)	私が書いたのは、基本的にわがままでして、簡単に言うと、すべての川との関係を大体1945年前後に戻せというのがトータルな意見なんです。もちろん断面を確保した上でということですけども、わがまだというのは、私の子供の頃、大体日本の市街地景観は、東京でもある程度江戸からの近世に連続する景観を持っていたと思います。「古事記の世界に戻せとまでは」とも書いたのですが、せめて50年ぐらい前の原点に戻って、どうせお金をかけていただければ戻してほしいというのが乱暴ですが私の意見です。	全体	治水対策を行った上で、川との関係を1945年前後の姿に戻す	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	・資料4(5)
13	B-3	第2回	B 歴史・文化・風土・生活	有光	産業と神事の近い関係の保全	農業や漁業や、そうしたベースがあって、やっぱり神事や祭りがあると思うんですけども、島根の場合そうしたもののつながりが随分保全されていると思うんですね。そういうものがつながっているということが魅力の一番だと思えます。	全体	農業・漁業など生活と神事とのつながりが魅力であり、その関係を保全してほしい	*	
14	B-4	第3回	B 歴史・文化・風土・生活	桑子	出雲の神々のイメージ		全体	出雲の神々のイメージ	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
15	B-5	第2回	B 歴史・文化・風土・生活	岸井	神社・仏閣はできるだけ存続 周囲の風土と一体		全体	周囲の風土と一体化している神社・仏閣を、できるだけ存続する		
16	B-6	第3回	B 歴史・文化・風土・生活	桑子	神社と水辺の関係をふまえる (写真1-19)		全体	神社と水辺の関係をふまえる	斐伊川源流から宍道湖・中海に至る流域に点在する出雲国風土記をはじめとする、古文書等に記載のある神社仏閣等を活かしたまちづくりが重要と考えています。	・資料4(7)(8)
17	B-7	第2回	B 歴史・文化・風土・生活	有光	神社と水面の関係	いくつも神社があると思うんですが、大体かつては水に接してあったらうなと。須賀都久神社は今、少し改善されたけれども、やっぱり道路に隔てられていますし、また賣布神社のところも、前は隣に川が流れておりまして、後ろは水面だったんじゃないかと思うんですけども、やっぱりそういう水と神社の関係というのは、ずっと今まで住民が感じ続けてきたことの集積だと思うんです。	全体	須賀都久神社や賣布神社のように、かつて水に接していたところが、今は水から隔てられている。水と神社の関係を大切にしてほしい	大橋川改修では、神社・仏閣等を出来る限り残すよう検討しています。	
18	B-8	第2回	B 歴史・文化・風土・生活	飯野	歴史・文化に関する学習の場		全体	歴史・文化に関する学習の場とする	(各学校では、総合的な学習の時間等において、地域の歴史や文化等を教材とした取り組みを行っています。)	
19	B-9	第2回	B 歴史・文化・風土・生活	有光	風土・生活・信仰に触れる旅		全体	生活者だけでなく来訪者にも風土・生活・信仰などが感じられるような地域であることが求められる	*	
20	B-10	第2回	B 歴史・文化・風土・生活	有光	舟運再生		全体	舟運の再生	現在、大橋川と境港の間で、中海水上バスが試験的に運行されています。	・資料4(9)
21	B-11	第2回	B 歴史・文化・風土・生活	有光	ホーランエンヤ		全体	地域の文化としてのホーランエンヤを大切に	ホーランエンヤ等の伝統行事は継承すべきものと考えています。	・資料4(10)
22	B-12	第2回	B 歴史・文化・風土・生活	布野	如泥石と云われる波消し石のような伝統護岸	これは時間があれば話題にしようと思って書いたんですが、小林如泥という不昧公に取り入ったというか、長野から来た大工さんなんですけど、この人が何でも屋さんで、天神川の天神様があるあたりに如泥堤という、白のような、テトラポットみたいなものを護岸にして、洪水を防いだという記録があるんです。お分かりになられる方がいらっしゃれば、それがどういうものなのか教えてもらいたいんですが。そして、それが使えるかどうかはわかりませんが、デザインボキャブラリーとしてそういう伝統的な工法、例えば信玄堤じゃないですけど、そういうものも含めたデザインとかというのとも考えられるかなと思って書きました。	全体	如泥石をはじめ、伝統的な護岸のデザインを再現できないか	如泥石をはじめ伝統的な護岸のデザインについては、本委員会や地域の皆様の意見を踏まえ、景観専門委員会で検討を進めていきます。	・資料4(11)

第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果 【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

No	意見ID	出された回数	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
23	B-13	第3回	B 歴史・文化・風土・生活	丸	全体に神社・仏閣の環境保存	やはり歴史、文化、そういったもので、他の地域に無いもので、山陰の小京都とも言われるようなもう一つの評価というのがどこから出てくるかといえば、それは文化的なところで松江の和菓子がとても良いとか、お茶の精神とか、そういうものもありますけども、やはり歴史的都市に極めて欠くことのできない神社仏閣、これが点在をしていることだと思います。ところが点在しているのに荒れ果てた神社仏閣になっているところもあれば、ちゃんと存続されているものもある。それから、ラファディオ・ハーンとみんな言いますが、ではハーンが訪ねた、西の方の〔船を買う女〕という怪談に出てくる大雄寺というのは本当に寂れて、今ようやく屋根の葺き替えをやっていますけども、一方でハーンを尊重しながら、実はハーンの怪談に出てくる非常に素晴らしいお寺が大事にされていない。それから、これも橋南になりますけども、ハーンが発見をした仏像とそのお寺がありますけども、そのお寺の仏像の保存状態もとても良いとは思えないんですが、お寺と神社についてのきちっと歴史的なものを保存していくような方法、それからその周辺に、例えば神社の隣にパチンコ屋が出来るといようなことが無いようにやらないといけないというわけで、全体的に松江の風情というときに、神社仏閣ということは非常に重要で、これは橋北、橋南に関わらず尊重してやっていく必要があると。そのことを言いたかったんです。	上流	松江の風情の大きな要素である神社・仏閣を大切にします	斐伊川源流から宍道湖・中海に至る流域に点在する出雲国風土記をはじめとする、古文書等に記載のある神社仏閣等を活かしたまちづくりが重要と考えています。大橋川改修では、神社・仏閣等を出来る限り残すよう検討しています。	・資料4(7)
24	B-14	第2回	B 歴史・文化・風土・生活	岸井	樹は切らない	先ほどの話と絡むのですが、もし本気でやりますと、何百年に1回の大改造だと思うんですね。それをやはり地域の活性化につなげなければいけない。ただ単に危険度が下がったというのではいけない。そうすると、この地域は出雲から松江、そして米子までで考えるべきんじゃないかと思えます。そのときに、このポイントは、ある意味では非常に、言い方は悪いですが売りますと思えます。そこに祭られているものを大切にすると我々の意識というのは、何か物が一つあれば良いんじゃないかと、そこにある空間そのものを大切にしようという意識が必要で、そうである以上、あまりそこそこについては無茶なことはしないということです。	下流	宍道湖から中海までを一体的に考えたとき、多賀神社周辺の緑は大切なポイントであり、その空間を大切にするという意識を持つべき	多賀神社周辺の大橋川沿いの樹木を切る部分が発生しますが、こうした大切な空間はできる限り保存、再生させることが必要と考えられます。	
25	B-15	第2回	B 歴史・文化・風土・生活	有光	舟倉・造船所		下流	水辺に関わる産業としての舟倉や造船所があることが記憶として残るよう	*	
26	B-16	第3回	B 歴史・文化・風土・生活	有光	朝酌地区現地(古代の市場)に案内機能		下流	朝酌地区に「古代の市場」の案内機能が必要	今後、観光ルートの設定等がされた際には、案内機能を設置することは可能であると考えられます。	
27	C-1	第2回	C 自然・環境	泉	人工物を出来るだけ排除する方向で環境との調和		全体	人工物をできるだけ排除し、環境との調和を図る	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
28	C-2	第2回	C 自然・環境	有光	水質向上		全体	水質の向上	島根県では大橋川を含む宍道湖の水質改善を図るため、平成17年3月、第4期の「宍道湖に係る湖沼水質保全計画」を定め、関係機関、関係市町、事業者及び住民との連携のもと、なお一層の浄化対策を総合的かつ計画的に推進することとしています。また、斐伊川水系水質汚濁防止連絡協議会において、水質保全対策の推進等が図られています。	・資料4(12)
29	C-3	第2回	C 自然・環境	有光	生態系保全(微生物・植生・魚・鳥など)		全体(特に中流)	生態系の保全(特に中流)	松江市では、生態系維持のための外来魚種の放流や特定の動植物の採取禁止、緑地の保全、自然林の保護など、豊かな自然環境の保全に努めています。また、大橋川改修による生態系への影響については、「大橋川改修に関する環境検討委員会」で客観的な意見を頂きながら、調査・検討していきます。	・資料4(13)
30	C-4	第2回	C 自然・環境	飯野	環境学習都市松江を目指す		全体	自然環境が残っている地域を学習の場として活用を図る	松江市では環境教育の普及に努め、啓発・実践を図ったり、環境教室の実施を行なっています。大橋川沿川においては「水辺の楽校」等の活用が可能と考えられます。	

第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果 【大橋川周辺地域のまちづくりに対する想い・意見「意見一覧」】

No	意見ID	出された回数	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
31	C-5	第2回	C 自然・環境	木村	湿地の維持・保全	私は中州を保全するという立場で「湿地の維持・保全」と書いたんですけども、そこはかなり広大な面積があって、しかも地域の湿地として何か生態系とかが非常に貴重だというふう聞いておりますので、残していく方向が良いんじゃないかと思って書かせて頂きました。	中流 (中州)	中州は貴重な湿地であり、維持・保全すべき	中州は市街化調整区域で、ほぼ全域において農業振興地域及び農用地区域の指定がなされており、現状では農業上の利用を確保すべき土地となっており、中海干拓・淡水化中止に伴う代替水源確保のための施設整備等も行われています。	・資料4(1)(14)(15)(16)
32	C-6	第2回	C 自然・環境	木村	中州のビオトープ機能の向上		中流 (中州)	中州のビオトープ機能の向上	また、松江市都市マスタープランでは都市を中心に4つの「都市軸」を考えており、中州は「自然と文化の創造軸」の中のビオトープエリアとして位置づけています。	
33	C-7	第3回	C 自然・環境	岸井	中州の環境教育フィールド		中流 (中州)	中州は環境教育の場としたい	松江市では環境教育の普及に努め、啓発・実践を図ったり、環境教室の実施を行なっています。	
34	C-8	第2回	C 自然・環境	飯野	植物・生物に関する学習の場		中流 (中州)	中州を植物・生物に関する学習の場として活用する	大橋川沿川においては「水辺の楽校」等の活用が可能と考えられます。	
35	C-9	第3回	C 自然・環境	松本	エコ農地としての総合的利用の可能性をさぐる	中州の部分に関しては現在農地で、市街地の流れは少しずつ押し寄せては来ているんですけども、その農地をこれだけ中心市街地に近い中州という立地環境は特異だと思うんですね。ですので、できましたらエコロジックな活用、生態系の保全とか環境学習の場になる、そしてなおかつそこでエコ農法が展開できれば、そこに従事されている方の中心市街地に隣接した農業の何か新しいあり方みたいなものになるのかなと。例えば今は完全に水田だけなんです。そして結構な割合で水田を、そのまま荒れている場所もあるんです。ですので、クリークの部分はなかなか高齢化で手間が行き届かないために土手の水際はがたがたになっているんですね。当然そういう	中流 (中州)	中州は中心市街地に隣接した農地であり、環境学習の視点も含めて、エコ農法など新しい農業の展開の可能性を探ってはどうか	松江市では、環境にやさしい農業の推進を図り、安全な農産物の供給と環境への負荷を軽減する取り組みが必要と考えています。	
36	C-10	第3回	C 自然・環境	松本	水面(クリーク等)を利用した中州生態観察ルートの設定	がたがたになっている状況が生物、野鳥とか、水際の動植物などには良好な繁殖場にはなっていると思うんですけども、何か農業をしつつエコツーリズムをできるような、そして少しでも陸域とではなく、水面を利用出来るような、農業をやっておられる方にできるだけ影響の無い形で両方が相互理解し合いながら近郊農業、エコ農法としての方向性みたいなものが何か掴めないかなと思います。完全に観光的な視点でも、例えば季節に応じて全部をレンゲ畑にして頂くとか、そういうのをNPOとかの団体でやることによって、中州が一つの見せ場になることも考えられると思いますので、その辺を少し入れたいなと思ひまして。	中流 (中州)	中州の水路を利用した生態系観察ルートを設定してはどうか	松江市都市マスタープランでは都市を中心に4つの「都市軸」を考えており、中州は「自然と文化の創造軸」の中のビオトープエリアとして位置づけています。	・資料4(1)
37	C-11	第2回	C 自然・環境	門脇	中の島の残地活用として、自然観察スポットとして環境教育に役立てる		中流 (中の島)	中の島を、自然観察スポットとして整備し、環境教育に役立てる	松江市では環境教育の普及に努め、啓発・実践を図ったり、環境教室の実施を行なっています。	
38	C-12	第2回	C 自然・環境	木幡	現状をできるだけいじらない		中流 (中の島)	中の島の癒しの環境の保全	中の島を環境教育の場として活用することは可能であると考えます。	
39	C-13	第3回	C 自然・環境	布野	中流部南岸、余りに直線的、もっと変化のある河岸にできないか 釣り 中流部南岸、エコトーン河岸は不可能か 環境教育に関連して年に何回か魚釣・魚採大会を行う場所	今の中島の環境学習というのと、今の松本委員の意見で、右岸もどうしてくれるんだと。右岸が余りにも直線的でそれはそのままだと成立しないんじゃないですかという人も。今度は「想い」の部分にも係って3点あります。一つは、対岸がそうなっているのに、こっちがほっといたらかして良いのかということ、昔はそこで僕らもウナギもとれたしエビも揃えましたが、非常に生物多様性的な護岸だったんですよ。それからもう一つは、同じような議論を今、私が宇治川でやっています、そこでは非常に直線的なところに、もう少しゆるい出っ張りや引っ込みを作って浅瀬も作って、生物多様性、水生生物の多様性を確保しようという議論をしています。それで、その南岸に前回言ったつもりだったんですけど、釣りが出来たり、それからエコトーンなんていう言い方をしていますけれども、よく理解しているわけじゃないんですけど、それこそ柳なり桜でも松でもいいんですよ、そういう植樹からずっと川辺の段階的な植樹なり生物で仕上げるような河辺はどうでしょうか。とてもそこまで手が回らないかもしれませんが、一言、そこで育った立場で想いに戻って言わせて頂きました。	中流 (右岸)	中流右岸は河岸が直線的で生物多様性に欠けると思うので、生態系に配慮した変化のある河岸(エコトーン)にし、魚釣りや魚採りができるようにできないか	大橋川右岸(南側)では航路としての役割を重視し、大橋川左岸(北側)では中の島、剣先川、中州が一体となった自然環境(生態系)に配慮した計画を考えています。	

第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果 【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

No	意見ID	出された回数	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
40	C-14	第3回	C 自然・環境	門脇	自然環境、下流部河口付近にヨシ・アシなどをもっと増やすことで、鳥や魚の住む場所そして水質浄化にも役立つ、環境教育にも役立つと思う		下流	下流部にヨシ・アシなどをもっと増やせば、生物の生息場所の確保や水質浄化、さらには環境教育にも役立つと思う	ヨシ（アシ）等は生物の生育環境と密接に関係することから、これまでにヨシ（アシ）等の生物の生育が確認されている場所では保全・再生を図る予定です。	
41	C-15	第2回	C 自然・環境	飯野	鳥類に関する学習の場	私は仕事柄教師なものですから、どうしても全体を通じて教育の場としてこの地域を位置付けたいなというふうに思っていて、特に河口のところは以前船で下りたときに、非常に多くの鳥類、水鳥がいました。ところが、残念ながらそれをきちんと説明できる人もいないし、それに関する情報の提供もされていません。ですので、やはり川と親しむということも大事なんですけど、ここを全体として自然に関するいろんな学習の場として位置付けるとおもしろいかなと思って、下流のところに貼らせて頂きました。	下流 (河口から中海湖岸周辺)	多くの鳥類がいる河口付近を、自然に関する様々な学習の場として位置付けるとおもしろい	松江市では環境教育の普及に努め、啓発・実践を図ったり、環境教室の実施を行なっています。大橋川沿川においては「水辺の楽校」等の活用が可能と考えられます。	
42	D-1	第2回	D 景観・眺望	岸井	広さ、ゆったりとした風景が必要		全体	広さ、ゆったりとした風景が必要	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
43	D-2	第2回	D 景観・眺望	泉	恵まれた自然景観		全体	恵まれた自然景観を残すことが大切	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
44	D-3	第2回	D 景観・眺望	島田	大山隠岐国立公園を意識した景観づくり		全体	大山隠岐国立公園を意識し、大山までを含めた景観づくりが必要		
45	D-4	第3回	D 景観・眺望	桑子	西の夕日、東の大山	いろいろとお話を伺う中で、皆さん夕日のことは非常に強調される。ただ、よく伺いますと大山の景観もすばらしいというふうにおっしゃるわけですね。先日見て頂いた秋鹿という所から見た大山がすばらしいというのは、大山を見るにもいろいろな視点、地点があるというお話がありましたので、つまり大山と西の夕日ですね、この東西に広がった空間の中でこの松江を見る。その視点を考えるというのも非常に重要なポイントかなということで「西の夕日 東の大山」と書かせて頂きました。	全体	東の大山と西の夕日という東西に広がった空間で松江を見る視点が重要なポイント	大山を含めた中海から宍道湖まで、広域で考えた景観づくりが必要と考えます。	
46	D-5	第2回	D 景観・眺望	景観委 景観委	朝霧に浮かぶシジミ舟 遠くに見える大山		全体	常に見られる固定的な景観だけでなく、「朝霧に浮かぶシジミ舟」「遠くに見える大山」などの季節的なものも含め、時折見られる風景への評価も必要	現況景観の分析においては、時間的に特徴的な変化をみせる要素や情景的要素も含めて検討しています。	
47	D-6	第2回	D 景観・眺望	岸井 岸井	船を 街を 眺める 対岸の見え方を意識するマナーが必要	松江の魅力の一つが水であるとおっしゃっていたんですが、私は、今の風景が必ずしも完全に良いものだという感じでは思っておらず、もうちょっとよくなるのではないかなと思っています。そのためには、お互いに見える、見せるという意識を持ち合うことが非常に大事で、船からもほかの人に見て頂く、そして我々も船を見る、そういうことを意識的に思っておく方が良いかなと思います。お互いに見ることによって、そこにある風土というのか、別の紙にも書きましたけど、対岸を何か意識した、そういうマナーがないといけないのではないのでしょうか。それがないと、風情が伝わらないというふうに思っています。	全体	相手（船や対岸）を見る・相手から見られるという意識を持ち合うことが、風景をもっと良くするためには必要	*	

第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果 【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

No	意見ID	出された回数	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
48	D-7	第3回	D 景観・眺望	布野	景観法の全面適用。景観形成区域として指定	要するに法的強制力を持ってやれるということがあって、今日の補足資料の中にちょっとだけ書いてありますけども、資料4の11ページに景観法は2年ほど前に出来まして、既に松江市は景観行政団体にもうなられていますし、景観法の景観基本計画を立てられるところまでいっているんです。ただ、そこにはお城の話しか入っていないので、ぜひ大橋川の全域を対象にしたらどうかという提案です。	全体	大橋川全域を景観法の景観形成地域に指定してはどうか	松江市は景観法による景観団体の指定を受け、景観計画を平成19年3月に策定し、景観条例を平成19年度の早い時期に施行を目指しています。大橋川沿川は、大橋・新大橋を含めて河川軸景観の形成を図る重要な地区になる可能性が高いため、今後検討を行うとともに、周辺住民の合意形成を図る必要があると考えます。	・資料4(17)(18)
49	D-8	第3回	D 景観・眺望	布野	松江城、大山、嵩山等、視点場の設定	前回、作業部会の準備会をしたときに思いましたが、このプロジェクト全体を景観法の形成区域に指定して、絶対やるべきだというふうに思い当たったというのがありまして、例えばそれの一つとして、今、そこに書いてあるような、これはむしろ中流域から下流域の方のイメージが強いんです。もちろん上流域でも幾つか今、岸井委員がおっしゃったようなストーリーをつくる中で重要な神社仏閣とか、それから自然のポイントを非常にそれがあると思うんですが、とにかくそこは大事にして、景観の規制を作ったら、市民の皆さんも納得して法的強制力を持った体系ができるんじゃないかと、そういう意味です。	全体	松江城、大山、嵩山などが見える視点場を設定した上で、景観法による景観規制を検討する		
50	D-9	第2回	D 景観・眺望	布野	舟からの景観による景観規制		全体	船からの景観による景観規制		
51	D-10	第2回	D 景観・眺望	岸井	この際、川沿いからなくしたいものを消す		全体	この際、川沿いからなくしたいものを消す		
52	D-11	第2回	D 景観・眺望	桑子	(付箋なし)	私の意見ですけれども、松江へ参りまして、やはり水が非常に近いと感じました。しかも水面だけではなくて、やっぱり松江をつくっている非常に重要な要素として水際のことがあると思うんですね。陸地と水の境目ですね。ここに何といいますか、風情というものがあるんじゃないかと思うんです。それをコンクリートで断ち切ってしまうと、風情のない空間になってしまうということ、水という言葉でもいるんな切り口があって、どういふふうに見るかということも大事なポイントではないかというふうに思います。	全体	松江は水際に風情があるので、そこをコンクリートで断ち切ると風情のない空間になってしまう	護岸のデザイン等については、本委員会や地域の皆様の意見を踏まえ景観専門委員会で検討を進めていきます。	
53	D-12	第2回	D 景観・眺望	布野	ホーランエンヤは永遠に(12年に1度)	ホーランエンヤというのは、12年に一度あるわけですね。出雲の時を刻む、非常に12年という、一生のうちにそう何度も見れませんけれども、時を刻む一つの行事ですし、大橋川を一体化する景を持っていますので、それを楽しめる護岸といいますか、川の景観であってほしいと、そういうふうに思います。	全体	ホーランエンヤは大橋川を一体化する伝統行事であり、このホーランエンヤを楽しめるような河岸と景観であってほしい	水と水辺の利用による親水性の向上と魅力的な景観創出が必要と考えます。	・資料4(10)
54	D-13	第3回	D 景観・眺望	有光	橋と建物との調和(堂島14~18)	昨日の見学の際に、少しくラシックな橋が幾つもありまして、殊に周辺の日銀ですか、中の島の辺りの建物と橋が調和しているというか、それぞれが周りに建っているものにどういふふうに分のデザインを加えていくかという積み重ねが出来ているなど、そういうのはやっぱり単独で独立して頑張っているものよりも美しいと思いました。	上流	橋と建物が調和した整備を考える	大橋、新大橋のデザイン及び周辺景観の形成については、本委員会や地域の皆様の意見を踏まえながら景観専門委員会で検討を進めていきます。	
55	D-14	第2回	D 景観・眺望	泉	治水計画を推進する前提条件として、街全体の景観に配慮が必要	直接治水計画のことはありませんが、治水計画をいっているとすると、もう少しまち全体の景観に配慮した方がいいんじゃないかということをお願いしたいのです。というのは、今、なし崩し的に、やや金太郎飴的なまちになりつつあると思っていますので、松江らしさが失われているという意味でもっとほかにやることあるんじゃないかということを書きました。	上流	治水計画を推進する前提として、街全体の景観に配慮することが必要ではないか	松江市は景観法による景観団体の指定を受け、景観計画を平成19年3月に策定し、景観条例を平成19年度の早い時期に施行を目指しています。景観計画は、ある一定の区域を景観計画区域として位置付け、建物等の形態意匠、規模や位置などの景観形成のためのルールを定めたり、その景観区域内の景観上重要な道路や河川などの公共施設については、景観計画に基づいて整備を行わなければならないなど、地域全体として一体的な景観形成を図ることが可能な決まりごとを定めるものです。	・資料4(17)(18)

第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果 【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

No	意見ID	出された回数	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
56	D-15	第2回	D 景観・眺望	泉	なしくずし的な乱開発に規制を、地区毎の用途別建物規制を ゾーニングの手法、2005年6月より施行された【景観法】による生活環境の保存、眺望権、日照権を保持できる条例の制定	今おっしゃったような水辺というのは、親水性と同時に、眺望とか、遠くから眺めてもいいという感じがなくてはならないと思います。最近では川岸に高い建物がどんどん建っておりますので法が何かで少し規制を加えないと眺望も阻害するし、周囲の山並みも陰になると思います。そこあたりをなし崩し的に放っておいて、川だけの景観を言っても問題にならないという気がします。そのあたりの前提をもう少し整理しながら、同時に大橋川の周辺の景観も含めたものを考えていかないと、全体の景観を建物で壊しておいて、そのあと大橋川をどのようにしようかというようなことはナンセンスだという気がしているんです。そういう意味で、私はここに貼っていないんですけど、水辺の空間、親水性と同時に眺望とか、そういうことに対する意見を言っておきます。	上流	親水性と同時に眺望も含めた大橋川周辺の景観に関して、もっと景観法などの法的規制をかけて保全すべきでないか	松江市は景観法による景観団体の指定を受け、景観計画を平成19年3月に策定し、景観条例を平成19年度の早い時期に施行を目指しています。大橋川沿川は、大橋・新大橋を含めて河川軸景観の形成を図る重要な地区になる可能性が高いため、今後検討を行うとともに、周辺住民の合意形成を図る必要があると考えます。	・資料4(17)(18)
57	D-16	第3回	D 景観・眺望	泉	景観法はまちづくり(松江らしさを生かした)には追い風と思われる		上流	まちづくりに景観法を活用するとよい		
58	D-17	第3回	D 景観・眺望	皆美	松江はどの角度からも天守閣が見える町であってほしい		上流	どこからでも松江城が見える町であってほしい	松江市では松江城の天守閣から嫁が島の水際を結ぶ視線の確保が重要であると考えています。また、大橋南詰めから松江城を望むことのできる視点場の確保をすることも大切であると考えています。	
59	D-18	第2回	D 景観・眺望	木村	川岸から2ブロック下がっても水辺が見えるように		上流	河岸から2ブロック下がっても水辺が見えるように	2ブロック離れた位置から水辺が見えるような護岸整備は難しいと考えています。	
60	D-19	第2回	D 景観・眺望	太田	県都としての風格と、観光地としての景観評価が高まるような橋・堤防・道路の形状が重要		上流	観光地としての評価が高まるような橋、堤防、道路の景観づくりが重要	堤防の形状、大橋・新大橋のデザイン、道路形態などについては、本委員会や地域の皆様の意見を踏まえながら景観専門委員会で検討を進めていきます。	
61	D-20	第3回	D 景観・眺望	飯野	「見られる」「見られている」を意識した店づくり、商店街づくり、まちなみ		上流	見られる・見られていることを意識した店づくり、商店街づくり、街並みづくり	*	
62	D-21	第2回	D 景観・眺望	太田	大橋の形状・デザイン、橋の中央部分の幅を広くして歩道を広めにとる	松江大橋、新大橋が架け替えになるという前提で書きました。やはり松江の中心市街地を川で南北を分けておいて、その中の松江大橋なわけで、今の状態で維持されるなら、それが一番良いと思いますけれども、川幅が広がるということによって架け替えなければならないということになりますと、南北のまちが遠くなるような格好では困りますので、私の考えとしては、歩道を広げて橋の幅を広くして、橋の中央部分、真ん中の方でもちょっと歩道を広目にとったような格好で、何か特徴ある橋を架けるようなことができないかなと。	上流(大橋)	大橋は、歩道を広くすることによって橋の幅を広げ、橋の中央部では更に広い歩道とするような、特徴ある橋にできないか	大橋の幅員については、地域の皆様の意見を踏まえながら本委員会で検討していただきたいと考えています。また、大橋のデザインについては、本委員会や地域の皆様の意見を踏まえながら景観専門委員会で検討を進めていきます。	
63	D-22	第3回	D 景観・眺望	丸	松江大橋は、橋南北を歩いて渡る楽しみのため、歩道を拡幅の要。ギボシ、欄干は残し、郷愁に配慮。		上流(大橋)	大橋は、南北を歩いて渡る楽しみのため歩道を拡幅し、郷愁のある擬宝珠高欄は残す		
64	D-23	第3回	D 景観・眺望	布野	大橋のDesignは国際コンペで		上流(大橋)	大橋のデザインを国際コンペで決めてはどうか	大橋の架け替えにあたり配慮すべき景観要素や景観設計の基本理念について、景観専門委員会で検討いただき、詳細設計に反映させていただきます。	
65	D-24	第2回	D 景観・眺望	木村	新大橋のデザインの見直し	松江大橋の伝統的なデザインからいうと、新大橋の方はちょっと味気ないように思いますので、もしも架け替えがあるならば、少し松江に合ったデザインを考える必要があるというふうに思っています。	上流(新大橋)	新大橋は、松江に合ったデザインを考える必要がある	新大橋のデザインについては、本委員会や地域の皆様の意見を踏まえながら景観専門委員会で検討を進めていきます。	
66	D-25	第3回	D 景観・眺望	島田	新大橋をもっと風格のあるものにし、橋詰を整備する		上流(新大橋)	新大橋は風格のあるデザインとし、橋詰を整備する		
67	D-26	第3回	D 景観・眺望	有光	橋の下部構造にも配慮したい	橋というのは大抵は上からしか見ないんですけども、船のことを考えますと正面だけではなくて裏側も、照明なんかも含めまして、いろいろな視点で考えていかないといけないんじゃないかなと思いました。	上流(大橋・新大橋)	船からの視点にも配慮した橋のデザインが必要である		
68	D-27	第3回	D 景観・眺望	木村	下から見上げても美しい橋		上流(大橋・新大橋)	下から見上げても美しい橋にする	大橋、新大橋のデザインについては、本委員会や地域の皆様の意見を踏まえながら景観専門委員会で検討を進めていきます。	

第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果 【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

No	意見ID	出された回数	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
69	D-28	第2回	D 景観・眺望	景観委	ラフカディオハーンの見た風景		上流	ラフカディオハーンの見た風景という視点での景観づくり	景観専門委員会において、沿川景観の歴史的背景についても、ラフカディオハーンの世界をはじめ大橋川に関連した文学作品等を踏まえ検討しています。	・資料4(19)
70	D-29	第2回	D 景観・眺望	木幡	川沿いの景観を大切に		上流	川沿いの景観を大切に		
71	D-30	第3回	D 景観・眺望	太田	堤防は石積みが景観上良い		上流	堤防の護岸は石積みが景観上良い		
72	D-31	第2回	D 景観・眺望	布野	濠(堀川)と一体の護岸デザイン		上流	濠(堀川)と一体の護岸デザイン	大橋川改修においても護岸は石積にするなど景観に配慮していきたいと考えています。	
73	D-32	第3回	D 景観・眺望	泉	上流右岸 鴨川の左岸のような形状で景観に配慮した護岸が望ましい	今の計画に沿った形をある程度、それを認めるかどうかは別として、右岸の部分は大体計画は20mくらい川幅を広げるんですね。その辺はちょうど京都の鴨川でいうと、左岸に近い形が良いのではないかなと、全体で。	上流(右岸)	上流右岸は、鴨川の左岸のような形状で景観に配慮した護岸が望ましい		
74	D-33	第2回	D 景観・眺望	有光	中州の水郷風景保全		中流(中州)	中州の水郷風景の保全	中州については、ほぼ全域において農業振興地域及び農用地区の指定がなされており、現状では農業上の利用を確保すべき土地となっています。その結果、現在の水郷風景が保たれています。	・資料4(14)(15)(16)
75	D-34	第3回	D 景観・眺望	桑子	古代景観のすばらしさ、意宇川&茶臼山		下流	意宇川や茶臼山などの古代景観のすばらしさをもっと認識すべき	*	
76	D-35	第2回	D 景観・眺望	飯野	風土記に思いを馳せる景観の保持		下流	風土記に思いを馳せる景観の保持		
77	D-36	第2回	D 景観・眺望	景観委	矢田の渡し 出雲国風土記		下流	矢田の渡し 出雲国風土記	景観専門委員会において、沿川景観の歴史的背景についても、風土記の記述をはじめ大橋川に関連した歴史的資料を踏まえ検討しています。	・資料4(20)
78	D-37	第3回	D 景観・眺望	布野	矢田の渡し周辺 風土記の記す景観を意識して整備 渡し船を実際に観光船とする		下流	矢田の渡し周辺は風土記に描かれた景観を意識して整備し、渡し船を観光船に利用してはどうか		
79	D-38	第2回	D 景観・眺望	有光	赤瓦集落	左岸の方に赤瓦の集落がありまして、全部移転なんていうことになったら残念だなと思うんですけど。やっぱり城下町とはまた違う景観だと思います。	下流(左岸)	赤瓦の集落が移転で無くなるのは残念	*	
80	E-1	第2回	E 水辺・水面・親水性	大谷	水辺の美しさ		全体	水辺の美しさを大事にする	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
81	E-2	第2回	E 水辺・水面・親水性	大谷	水辺の近さ		全体	水辺の近さを大事にする	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
82	E-3	第2回	E 水辺・水面・親水性	木村	目線と水面高が近い点		全体	目線と水面高が近い点	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
83	E-4	第2回	E 水辺・水面・親水性	木村	街と水辺の一体感		全体	街と水辺の一体感	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
84	E-5	第2回	E 水辺・水面・親水性	有光	水面との近い関係を保持		全体	水面との近い関係を保持する	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
85	E-6	第3回	E 水辺・水面・親水性	有光	人が本能的に選ぶ場所の法則	昨日の鴨川ですが、今出ている写真のところのアベックの方が大体等間隔で並んでおります。選びたくなる場所、選びたくなる向きがあり、川に向かって背中を向けて座る人はいないんですね。だから、そういう基本的な気持ちみたいなものを大事にして設計をすべきだなと思います。	全体	人が寄り合う場所では、それぞれが居心地のいい空間を確保できるよう設計する	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	

第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果 【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

No	意見ID	出された回数	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
86	E-7	第3回	E 水辺・水面・親水性	飯野	水辺といっても「演出」＝「ストーリー性」＝「らしさ」が重要なポイントである。		全体	水辺は「演出」＝「ストーリー性」＝「らしさ」が重要なポイントとなる	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
87	E-8	第3回	E 水辺・水面・親水性	有光	水底が見える水質の良さ(鴨川A-14)	やはり大阪と京都の非常に大きな違いは、水のきれいさだったと思うんですね。水が汚いとやっぱりだめです。かつ鴨川の場合、高瀬川も水底が見えています。それだけでかなり魅力があると思います。	全体	水質を良くし、水辺からは常に水底が見えるようにする	島根県では大橋川を含む宍道湖の水質改善を図るため、平成17年3月、第4期の「宍道湖に係る湖沼水質保全計画」を定め、関係機関、関係市町、事業者及び住民との連携のもと、なお一層の浄化対策を総合的かつ計画的に推進することとしています。また、斐伊川水系水質汚濁防止連絡協議会において、水質保全対策の推進等が図られています。	・資料4(12)
88	E-9	第3回	E 水辺・水面・親水性	木村 後藤	めりはりのある親水性(鴨川B16) 超親水性	先ほど、最初の方で区間分けした親水性の整備という意見が出ていまして、それと同じようなことだと思うんですけども、鴨川でしたら左岸と右岸で随分川辺の整備が違うわけですね。松江の場合、水辺の魅力というのは、まちと水辺が非常に近いということであって、家のすぐそばに川が流れているというような感じだと思うんですね。そういう場合に親水公園や緑の場を設けて、まちと川を遮断するような形での親水性の整備はふさわしくないと思うんですね。ただ、一方で憩いの場が不足しているというのも事実であって、そういう意味で、まちと水辺の近さというか一体感を重視するような親水性を求める場所と、そうではない遊歩道とか公園的な整備で憩いの場として積極的に使っていくというんでしょうか、そういうような整備の場所とをはっきり区別して親水性の整備をしていくということが必要じゃないかと思って提案させていただきました。 ----- 先ほど言われたように、めりはりのある場が必要なんじゃないのかなあと。	全体	まちと水辺の一体感を重視して親水性を求める場所と、遊歩道や公園などの憩いの場所とを区別して整備をする必要がある	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
89	E-10	第3回	E 水辺・水面・親水性	木村	歩行者中心の親水空間		全体	歩行者中心の親水空間を創出する	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
90	E-11	第2回	E 水辺・水面・親水性	宇田	耐水性と親水性を上手に調和させた街づくり		全体	耐水性と親水性を上手に調和させた街づくり	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
91	E-12	第2回	E 水辺・水面・親水性	有光	柵・手摺に頼らない安全	今の護岸には柵が無いところがたくさんありますけれども、万一落ちても死なないような断面だからだと思うんですね。だから、そういうことや、自然な形で安全を保持する。手すりとか固いもので隔ててしまうのではない形のものにしたいと思います。	全体	柵・手摺に頼らず、自然な形で河岸の安全を保持する	地域との協議の中で安全上必要な箇所については、設置をする場合もあります。	
92	E-13	第3回	E 水辺・水面・親水性	吉田	水際にむやみに柵を設けない	見た目に柵というどうしても1m近くあり、そこでかなり遮断されているような印象を受けますので、そういう意味合いです。	全体	水際にむやみに柵を設けない		
93	E-14	第2回	E 水辺・水面・親水性	有光	ゆるやかな斜面		全体	河岸はできる限りゆるやかでやわらかい形としたい	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
94	E-15	第3回	E 水辺・水面・親水性	吉田	河岸には緑(植物)を入れる		全体	河岸には緑(植物)を入れる	河岸に植栽をすることは可能ですが、植物の種類及び箇所等については河岸の形状等と併せて今後、本委員会の中で検討することとなります。	
95	E-16	第3回	E 水辺・水面・親水性	有光	緑の複合的利用(鴨川B-10)		全体	水辺の緑は単一的な植栽ではなく、高木・低木などさまざまな緑を複合的に取り入れる		
96	E-17	第3回	E 水辺・水面・親水性	吉田	水辺に降りられる階段を設ける	特に書くまでもない、半ば常識的なことではないかと思いますが、所々に階段がなければ水面との一体感が無いのではないかと感じました。実際にどういう使い方をされるかというのもよくわかりませんが、今、大橋川の周辺にも昔は使われていたであろう階段もありますし、それは当然作っていくべきだと思います。それと今回、道頓堀川の方であった歩道に、あまり階段というものがあることはありましたが、ちょっと少なかったような感じがして、特に木道の部分ですね、そういうところにも水面との一体感を設けるためには階段が必要ではないかと思いました。	全体	水辺に降りられる階段を設ける	水辺に降りられる階段の設置については可能です。階段の構造及び箇所等については河岸の形状等と併せて今後、本委員会の中で検討することとなります。	

第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果 【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

No	意見ID	出された回数	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
97	E-18	第3回	E 水辺・水面・親水性	木村	水の流れの音 (鴨川B-04)	昨日鴨川を見せて頂いた中で、四条大橋の少し下流側に段差工がありまして、水の流れ落ちる音が響いていてちょうどそれが四条大橋の道路の騒音を打ち消して、まちの中にいるのに何かちょっと滝のそばにいるような雰囲気を感じることができて、音というのは非常に大事な要素だなというふうに思いました。松江の場合、水の音を感じさせる場所というのは今のところあまりないと思いますし、松江の川というのは勾配が小さいですから難しい話であると思うんですけども、音の要素というの、できたら新たに創出する水辺の要素として考えていったら良いんじゃないかというふうに思っております。	全体	水の音を新たに創出することを考えてはどうか	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
				有光	音の効果 (鴨川-24)	私も一緒なところで感じたのですが、やっぱり本能を刺激するところもあると思います。				
98	E-19	第3回	E 水辺・水面・親水性	布野	サウンドスケープ。何か音を取り入れられないか	私は余り深く考えず、もうちょっと軽いことで書いたんですけど、大橋川を渡るときにカラコロ鳴るとか、それはちょっと人工的かもしれませんが、音も考慮したらという程度で書きました。	全体	音が創出される工夫をする	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
99	E-20	第2回	E 水辺・水面・親水性	布野	ある時は右 左、ある時は左 右、この不思議な大橋川	最初の委員会的时候にも申し上げたんですが、潮が上がってくれば逆流する川というのはたくさんあるんでしょうけれども、こういう勾配差が無い川で、ある日は右側に、あるときは左側という流れ方をしていることが、本当に子供のころ不思議に思っていたんです。そういうものを眺める場所とか、そういうものは大事にしたいというふうに思います。	全体	ある時は右に、ある時は左に流れる不思議な川の特性を大事にしたい	大橋川で見られる右左に流れる特性については、大橋川改修後も保たれます。	
100	E-21	第2回	E 水辺・水面・親水性	有光	灯籠流し	水があっちに流れたりこっちに流れたりするということにも関係していると思いますが、灯籠が一気に流れてしまうのではなく、あっちへゆらゆらこっちへゆらゆらしているから良いんだと思います。それからお盆の宗教行事としても、この前の夏もやっておられましたので、本当に生活に根付いているなと思います。	上流	灯籠流しに代表されるような、生活・信仰と水・川との密接な関係を断ち切らないでほしい	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	・資料4(21)
101	E-22	第2回	E 水辺・水面・親水性	岸井	寺町と水辺の関係を密にしたい		上流(右岸)	寺町と水辺の関係を密にしたい	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
102	E-23	第3回	E 水辺・水面・親水性	桑子	柳or松		上流	上流の河岸にふさわしい木は柳なのか松なのか	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
103	E-24	第3回	E 水辺・水面・親水性	門脇	松江大橋～新大橋間の南側に桜・柳(シダレ桜・柳)を植栽 (鴨川B-14)		上流(大橋～新大橋間の右岸)	大橋～新大橋間の右岸に桜と柳を植える	河岸に植栽をすることは可能ですが、植物の種類及び箇所等については河岸の形状等と併せて今後、本委員会の中で検討することとなります。	
104	E-25	第3回	E 水辺・水面・親水性	木幡	中・下流部には並木(桜・柳・ナンジャモンジャ等)を植えて新しい景観をつくりたい		中流・下流	中・下流部には桜・柳・ナンジャモンジャなどの並木をつくり、新しい景観をつくりたい		
105	F-1	第2回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	岸井	水辺をできるだけ歩ける空間にする		全体	水辺をできるだけ歩ける空間にする		
106	F-2	第2回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	飯野	リバーウォークができる歩道づくり	外国をふらふらと歩いていますと、やはり川べりというのは基本的に歩く人が最優先なんです。やはり車はそこから一段下がるとかというふうな形で造られていまして、やはり川べりというのは歩くというのが基本的な一番の要素かなと。それが川に親しむ人たちの生活を一番象徴しているのかなと思って、リバーウォークという言葉で書きました。	全体	リバーウォークができる歩道づくり	堤防や護岸の形状によっては可能と考えています。	
107	F-3	第3回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	吉田	遊歩道を水面近くに設ける		全体	遊歩道を水面近くに設ける		

第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果 【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

No	意見ID	出された回数	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
108	F-4	第2回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	飯野	住民が水と親しむいいこの場		全体	住民が水と親しむ憩いの場の整備	現在ある公園、緑地等の代替施設を整備することは可能ですが、その他の施設整備にあたっては、本委員会や市民の皆様の意見を踏まえて検討したいと考えています。	
109	F-5	第3回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	岸井	滞留できる場の演出、slow		全体	滞留できる場の演出を考える		
110	F-6	第3回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	有光	多目的に利用できる川原(鴨川B-02)		全体	多目的に利用できる川原の整備	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
111	F-7	第3回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	吉田	護岸や遊歩道は単調とならないように工夫する		全体	護岸や遊歩道は単調とならないように工夫する	デザイン等については、本委員会の皆様の意見を反映させていきたいと考えています。	
112	F-8	第3回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	木村	河道内遊歩道の舗装の工夫(鴨川B-02)		全体	河道内遊歩道の舗装を工夫する	河道内に遊歩道を設ける場合は、舗装等についてご意見をいただき、設計に反映したいと考えています。	
113	F-9	第3回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	松本	下流から上流までをサイクリングルートでつなぐ	是非下流域から下流、中流、そして上流へのそういうサイクリングロードとして利用できるような距離で丁度良い。今回、鴨川をすごくハイテクな自転車でバンバン走っておられましたので、ああいう感じで全体が繋がれば、国道の交通量、朝夕の通勤・通学の足になるのではないかなと思います。	全体	下流域から上流域までをつなぐサイクリングロードを作る	サイクリングロードとしての整備は考えていませんが、堤防や護岸の形状によっては自転車で通ることは可能だと思います。	
114	F-10	第3回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	後藤	ハードと共に今後のソフトを考える必要がある	ただ作れば良いというものではなく、それをどう我々市民が親しんでいくかということで、これはまさしくハードではなくソフトの部分だと思います。ただ作っただけで人が集まるとは限らないですから、そこに集まるような創造を我々がしていけないと、きれいなものは出来たけれども人が全く立ち寄らないというようなことになってもこれは非常に勿体ない話ですので、ハードを考える上ではソフトも十分に考えていって、同時に創り上げていくべきなんじゃないかなと思いました。具体的な例は特に無いんですけども、鴨川なんかもおそらく、ああいった人が集まるべき仕掛けといったようなものが何かあると思います。松江は松江で、松江になじんだ、そういうものをつくっていくことが必要なのかなと思います。	全体	施設(ハード)を考える上では、人が集まるような仕掛け(ソフト)を創る必要がある	本委員会や市民の皆様の意見をふまえて施設整備を検討したいと考えています。	
115	F-11	第3回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	飯野	緑(木陰など)の少ないエリアは人の集まり(にぎわい)につながっていない(大阪・京都の例)		全体	木陰などの緑が少ないエリアは人の集まり、賑わいにつながらない	*	
116	F-12	第3回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	木幡	公衆トイレをとところどころにおくこと(鴨川散策の感想)		全体	公衆トイレをとところどころに設置すること	*	
117	F-13	第2回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	木幡 木幡	木が少ない もっと緑を 公園が庭園みたい、松にこだわらないこと、憩いの場に	護岸とは限りませんが、松江のまち全体として、まちの中に意外と緑が少なく、また、松江の公園も松の木ばかりなので、いわゆる木陰ができないため憩いの場所になっていないと思います。カップルが歩こうにも、周りからみんな素通しになってしまうし、松江の公園は、公園というよりは、何か庭園というような趣の公園が多く、それは、鳥根県の県木がクロマツだからかなと思っていたら、松以外の木を植えると葉っぱが落ちて掃除が大変なので、市役所があまりほかの落葉樹を植えたがらないということのようだという話を聞いたことがあります。本当かどうかはわかりませんが、やっぱりもうちょっと木陰で憩える場所を、これから高齢化社会ですから、例えば老夫婦が木陰のベンチでゆっくり時間を過ごせるような公園を造ってほしい。別に直接水とは関係ありませんが、景観の一つだと思って書きました。松がいけないと言っているんじゃないですよ。松ばかりでは困るということです。	上流	まちの中に緑が少なく、また、庭園のような公園が多いので、松にこだわらず、木陰で憩える場を作ってほしい	*	

第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果 【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

No	意見ID	出された回数	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
118	F-14	第2回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	門脇	改修を契機に、松江の伝統産業であるお茶・菓子店と、神社・仏閣等、松江らしさを出したまちづくり	ちょっと乱暴な意見ですが、さっきもお話があったように、大橋と新大橋が仮に架け替えになるという前提で考えると、例えば大橋の南でしたら、多分合銀の本店ぐらまでは擦り付けがくることになって、そうなったときには、もう白潟本町、和多見は移転というふうなことも考えられるのではと思います。しかし、あそこは神社仏閣が多くあるわけですね。そうしたときに、それらを中心としたならば、松江らしさを引き出すということで、やはり特にお茶とお菓子の松江ですから、お菓子屋さん、或いはお茶屋さんをそこに集積し、さっき太田委員もおっしゃったような、市民の皆さんや観光客が回遊できるような格好にするというようなことで、大橋と新大橋付近は今、ご無礼ですが、もう死にまちになっていきますから、もうちょっと人通りを多くするために、ちょっと冒険ですが、そういうふうなことをやってみたらどうだろうかという意味でございます。	上流 (大橋・新大橋周辺)	改修を契機に、神社・仏閣の多い場所に伝統産業であるお茶・お菓子屋を集積し、大橋から新大橋付近を観光客や市民が回遊できるようにして、活性化を図りたい	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
119	F-15	第2回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	木村	水辺のイベントスペース、野外ステージなどのにぎわい空間	若者が集まる場が少ないと思います。水辺は魅力的なんですけれども、近くに寄っていきこうという気になかなかない。若者が寄ってくれば賑わえるなどということ、格好の空間ができてくるんじゃないかという気がします。	上流	若者が集う水辺のイベントスペース、野外ステージなどのにぎわい空間の整備	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
120	F-16	第2回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	有光	舟溜り整備	幾つか船溜りがありますけれども、割とそばに普通の人が寄れないような感じになっていまして、もっと観光客やいろんな人が漁業やプレジャーボートのそばに寄れて交流ができるような形になれば良いと思います。	上流	人々がふれ合えるような舟溜りの整備	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
121	F-17	第2回	E 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	木村	河岸に2車線以上の道路がないこと(守るべき点)		上流	河岸は人優先の道路とすべき	(河岸で人優先の道路にすることは可能ですが、現在ある道路(市道等)の機能を確保することが必要となります。)	
122	F-18	第3回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	木幡	そぞろ歩きの遊歩空間を作りたい。上流部の左岸、右岸		上流	そぞろ歩きのできる遊歩空間を作る	堤防や護岸の形状によっては可能と考えています。	
123	F-19	第2回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	木村	遊歩道(橋の下をくぐる)がほしい		上流 (大橋・新大橋)	橋の下をくぐる遊歩道がほしい	堤防や護岸や橋の形状によっては可能と考えています。	
124	F-20	第2回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	岸井	橋詰めに広場が重要	松江にとって水辺、橋は大変重要ですが、やはり市民の方たちが水辺をちゃんと眺められて、そこに集えるような、そういう広場というのは本来必要だと思います。いろんな意味でそういう場は使われていまして、また、昔はそもそも橋詰めに広場があったわけですから、今回しっかり造った方が良いと思います。	上流 (大橋・新大橋橋詰め)	橋詰め広場の整備	橋梁の架け替えや仮橋の設置に伴う残地を有効に活用したいと考えています。	
125	F-21	第2回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	太田	大橋・新大橋を回遊できる歩道を設置	大橋から新大橋までをずっと遊歩道でつないで回遊できるような、そういうような親水の面も併せて、観光の面と、そして住民の皆さん方もまた楽しめる、そういった環境づくりが必要じゃないかという具合に思っております。	上流 (大橋・新大橋)	大橋～新大橋間に、人々が水に親しめる回遊歩道を整備	堤防や護岸の形状によっては可能と考えています。	
126	F-22	第2回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	景観委	ヤナギ並木		上流 (大橋～新大橋間の左岸)	アンケートで柳並木は好きな場所として上がっている	*	
127	F-23	第3回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	島田	上流北側(左岸)川沿遊歩道を作る(鴨川A-19を参照して)		上流 (左岸)	上流左岸の川沿いに遊歩道をつくる	堤防や護岸の形状によっては可能と考えています。	
128	F-24	第3回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	太田	南:京都鴨川(遊歩道) 北:堂島川(写真1班21)		上流 (左岸・右岸)	上流左岸は堂島川の難波橋付近を、右岸は鴨川の遊歩道を参考にする	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
129	F-25	第3回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	島田	上流南側、自動車の通行禁止 植栽、石垣を工夫する		上流 (右岸)	上流右岸は自動車の通行を禁止するとともに植栽、石垣を工夫する	河岸で人優先の道路にすることは可能ですが、現在ある道路(市道等)の機能を確保することが必要となります。	
130	F-26	第2回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	木村	くにびき大橋から中州に下りる道路		上流 (くにびき大橋～中の島)	くにびき大橋から中の島に下りられる道の整備	中の島へのアクセスについては、中の島の利用のあり方が決まった段階で検討します。	

第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果 【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

No	意見ID	出された回数	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
131	F-27	第3回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	丸	市民、観光客、ビジネス訪問客のため、広大な森林を形成。 林の中の遊歩道、ジョギングウェイを作る	先ほど意見は申し上げたところですが、またボードにも貼りましたけれども、私は中州は広大な森林公園として生まれ変わらせるというのが一番適切な方法ではないかと思えます。もちろんそうした後、都市型の一つの広大な森林公園という中にはもし進出する起業家があられば、山陰に全くない動物園をその森林公園の中に配置をして、それから第五大橋からくびき大橋まで、この第五大橋は現在の松江の南側に通っております。既に完成している高速道路から直接第五大橋に下りられる設計になっておりますが、そこで下りてきた車が森林公園の大橋川に隣接する部分にハイウエーを作って、一気に第五大橋を下りてくびき大橋のたもとまで、全く何の障害物もなくハイウエーで松江の中心部分に来れるようにすると。同時に、そのハイウエーの大橋川寄りのところは、先ほど申しましたように最も親水性を配慮して、芝生もあってそれでアベックの皆さんが安心して喜んで座れるような場所がずっと終始その1,000mぐらいの間にあるという状況にして、それから森林公園の中にはニューヨークのセントラルパークのようにジョギングもできるし散策もできるし、そういう曲線の遊歩道をずっと作っていくという、そういう形で活用するのが将来の松江市の発展を考えた上で一番良いのではないかと思います。	中流 (中州)	中州は、ニューヨークのセントラルパークのような広大な森林公園とした	中州は市街化調整区域で、ほぼ全域において農業振興地域及び農用地区の指定がなされており、現状では農業上の利用を確保すべき土地となっております。また、中海干拓・淡水化中止に伴う代替水源確保のための施設整備等も行われています。 松江市都市マスタープランでは都市を中心に4つの「都市軸」を考えており、中州は「自然と文化の創造軸」の中のピオトープエリアとして位置づけています。	・資料4(1)(14)(15)(16)
132	F-28	第3回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	島田	中流北側(左岸)川沿遊歩道を作る (鴨川A-19外参照して)		中流 (中州)	中州の川沿いに遊歩道を整備	堤防や護岸の形状によっては可能と考えています。	
133	F-29	第2回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	太田	川沿いには遊歩道(ジョギング道路)		中流 (中州)	中州の川沿いにジョギングができるような遊歩道を整備	堤防や護岸の形状によっては可能と考えています。	
134	F-30	第2回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	木村	サイクリングロードなどの市街地でない魅力の創出	大橋川の中・下流域なんですけど、この間、現地視察で見せて頂きまして、非常に景観的に美しいんですけども、市内に住んでいるとほとんど行く機会が無いので、行ってみたいと思わせるような細工が何か必要じゃないかというふうに思いました。市街地の近くであれば遊歩道などがありますが、そのあたりの地域などであればやはりサイクリングロードが適当ではないかということで提案させて頂きました。	中流・下流 (左岸)	美しい景観を気軽に楽しめるサイクリングロードの整備	サイクリングロードとしての整備は考えていませんが、堤防や護岸の形状によっては自転車を通ることは可能だと思います。	
135	F-31	第3回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	島田	下流北側(左岸)、川沿い遊歩道を作る (鴨川A-19を参照して)		下流 (左岸)	下流左岸に、川沿いの遊歩道を整備	堤防や護岸の形状によっては可能と考えています。	
136	F-32	第3回	F 川沿いの遊歩道・憩いの場・にぎわい空間	島田	下流、島根半島全体を考えたサイクリングロードの整備		下流	下流域から島根半島全体を見据えたサイクリングロードの整備をしたらどうか	サイクリングロードとしての整備は考えていませんが、堤防や護岸の形状によっては自転車を通ることは可能だと思います。	
137	G-1	第2回	G 川で楽しむ	布野 布野	泳ぎたい かつてのように 釣りしたい かつてのように		全体	かつてのように泳ぎたい、釣りをしたい	*	
138	G-2	第2回	G 川で楽しむ	有光	カヌー・レガッタ・ボート		全体	カヌー・レガッタ・ボートが楽しめる川	*	
139	G-3	第2回	G 川で楽しむ	布野	ボート部の練習が見たい		全体	ボート部の練習が見たい	*	
140	G-4	第3回	G 川で楽しむ	門脇	松江の風情、シジミ。市民・観光客の皆さんが宍道湖に入って自らの手でシジミを取る楽しさ。観光客の皆さんには忘れられない思い出に。		上流 (宍道湖)	市民・観光客が宍道湖に入ってシジミ取りができるような企画を考えてはどうか	*	
141	G-5	第2回	G 川で楽しむ	太田	水上スポーツなどが楽しめる		中流 (剣先川)	水上スポーツなどが楽しめるよう整備する(剣先川)	*	

第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果 【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

No	意見ID	出された回数	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
142	H-1	第2回	H 治水	有光	浸水の可能性を前提としたまちづくりの研究	住宅の設計をしておりますと、前の水害のときにはここまで水が来たから、大事なものはもうちょっと上にといったように、もう水に浸ることを許容している方もおられます。そういう建て方もあるのではないかと私は思っておりますので、絶対水に浸らないようにつくることが前提ではないのではないかと思います。浸っても良い商売の仕方もあるだろうし、そういう建物もあるだろうし、そういうことも含めて広く研究した方が良いのではないかなと思います。	全体	浸水を許容できるまちづくりの方法を研究してはどうか	市街地において浸水を許容する（浸水を有する）場合には地方公共団体の条例により災害危険区域を指定するなど、新たな土地利用とのセットで取り組む必要があり、経済活動に厳しい規制がかかることから難しいと考えます。ただし、現在の遊水機能のある地域を出るだけ存置することはあり得ると考えます。	
143	H-2	第3回	H 治水	布野	地域防災としての「畳堤」毎年訓練		全体	揖保川には地域防災としての「畳堤」がある	必要な河岸の高さを確保する方法として畳堤がありますが（畳を差し込むだけの欄干を設置し対応しているもの）、地域住民による水防活動が必至となります。またこの場合も、橋詰めについては大橋・新大橋で洪水を安全に流下させるには嵩上げが必要となります。	・資料4(22)
144	H-3	第2回	H 治水	泉	治水の工法としては鴨川のように洪水時だけ流れる低地帯を造ることで、大橋川の生態系が維持できるのではないかと考える	治水計画について言えば、今、大橋が架かっているあたりの川幅は昔からその幅だったと思うんですが、それを補完する意味で、天神川はもう少し幅が広がったと思うんです。そして、天神川から賣布神社のところにクリークが通ってました。したがって、それが大橋川の川幅の狭さを補完していたんじゃないかなと思うんです。クリークは今もう埋まってしまっておりますから仕方がないんですが、それで、どういうふうに上げられるのかわかりませんが、大橋の場所を今のところの計画で南側を30m近く川幅を広げられるのでしょうか。この間、鴨川に視察に行ったときに、その場合は、川の中に小さな堤防みたいなもの造ってました。したがって、全体の川幅を広くするんじゃないかと、洪水時には全幅の水が流れるんだけど、ふだんは狭い川幅なんだという格好にしたらどうかという気がするんですよ。したがって、今、源助地蔵さんのあるところ、庄助という飲み屋さんがあるあそこを島みたいな形で残す方法はないのかなと思います。そして、もう少し南側に、さっき言ったような洪水時だけに流れる低地帯をつくって、洪水時には流したら良いんじゃないかなと思うんですよ。と言いますのは、それはいろいろな工法があると思えますけど、一遍に大橋川全体の川幅を広げてしまうと、いわゆる生態系に多少影響が出てくるんじゃないかなと感じがしております。それで、先ほど有光委員もおっしゃっていましたが、灯籠流しのときに、その灯籠が、東へ行ったり西へ行ったりするということで、昔から大橋は、「今日は下げちょうかや、込んじょうかや」という言葉があるんです。「込んじょう」というのは逆流しているということで、「下げちょう」というのは東の方へ流れているということで、そういうふうにしよっちゅう流れが変わるんですね。そうした中で生態系が維持できているとき、川幅を一様に広げてしまうと案外流れが一方的になるんじゃないかなと思うんです。まあこれは素人考えですが、したがって、私が言いたいのは、川幅は普段の流量のときは今の川幅で、洪水時にはもう少し低い部分で流す方法はないのかなということなんです。例えば鴨川では下に堤防がございますね。ああいう形で、それこそ水面にかなり近い高さのところをずっと帯みたいにして流す方法はないかなということで提案してみました。ただし、これは素人考えですからよくわかりませんが。	上流(右岸)	治水の工法としては鴨川のように洪水時だけ流れる低地帯を造ることで、大橋川の生態系が維持できるのではないかと考える	*	

第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果 【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

No	意見ID	出された回数	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
145	H-4	第3回	H 治水	泉	左岸の宍道湖大橋から松江大橋までの間 上流部の築堤に近い形の堤防	大橋川の左岸の方は、宍道湖大橋から松江大橋まで、それから松江大橋から新大橋まで、新大橋からくにびき大橋にかけて、多少ニュアンスが違った開発しか、しようがないのではないかなという気がします。したがって、これは私見でまさに稚拙な意見かも知れませんが、大橋から新大橋の間は旅館とか、その他いろいろ営業をなさってる方々がおられ、また、あの前の川べりの道路は、元々昭和7年の東本町の大火まで、あそこはぎりぎりまで建物が建っていたところを、いろんな意味で道路ができたんですが、今、実際の問題として旅館の北側には道路がありますし、あれは平生、交通上の必要な道路ではないのではないかという気がしています。ですので、あそこを低地帯にして洪水時には冠水して水が流れて川幅を補充するという形にして、土手の上部の幅は5mくらい確保できるわけですけど、例えば火災なんかのときは消防が入れるような道路にして、普段は歩行者なら入っても良いというような形にしたらどうかという気がして、それであそこの部分を分けたわけです。細かく言うといろいろありますが。	上流 (宍道湖大橋～大橋間の左岸)	左岸の宍道湖大橋から大橋までの間は、上流部の築堤に近い形の堤防にする	河岸の形状等については、本委員会や地域の皆様の意見を踏まえて景観専門委員会で検討を進めていきます。	
146	H-5	第3回	H 治水	泉	左岸の松江大橋から新大橋までの間 河岸の道路は洪水時には冠水する低い護岸堤にする	上流 (大橋～新大橋間の左岸)	左岸の大橋から新大橋までの間は、河岸の道路は洪水時には冠水する低い護岸堤にする			
147	H-6	第3回	H 治水	泉	左岸の新大橋からくにびき大橋の下流部 堤防	上流 (新大橋～くにびき大橋の左岸)	左岸の新大橋からくにびき大橋までの間は、築堤する			
148	H-7	第3回	H 治水	布野	上流、透明なパラペット 上部50cm、世界に例のないモダンな堤防	いろいろご異論もあるかもしれませんが、1m50cm上げないといけないという中で、一番上の50cmがある種の安全率を見ているという意味であつたら、その部分は万が一の時ですから、例えば非常にモダンな材料で、例えば透明な材料でやっておくとか、そのデザインは世界にないデザインができるんじゃないかということなんです。それからもう一点、ついでに言いますと、これは桑子先生がよくご存じで僕は実際見たことないんですけど、量堤という、いざとなったら量大のものをはめていくという治水の方法があります。要するに土のを積むというのは担保にならないんだそうですから、いざとなったらそういうものを市民の防災力でやりますよというものです。それを例えば近代的にハイテクで作っておいたらどうかというような意見です。	上流	世界に例のない斬新なデザインの堤防をハイテクを駆使してつくってはどうか	河岸の形状等については、本委員会や地域の皆様の意見を踏まえて景観専門委員会で検討を進めていきます。	
149	H-8	第3回	H 治水	木村	松江にマッチしたスーパー堤防を検討 (堂島川2-4)		上流	松江にマッチしたスーパー堤防を検討する	改修にあわせ川沿いの土地も嵩上げをするスーパー堤防の整備を行う場合は、面的な市街地整備と一体で施工することが不可欠となります。河岸の検討にあわせ今後、地域に適合した事業を検討する必要があります。	
150	H-9	第2回	H 治水	岸井	中州をできるだけ治水に役立てる		中流 (中州)	中州をできるだけ治水に役立てる	効果的・効率的な遊水機能として現在の中州を保全していくことは有効です。	
151	H-10	第2回	H 治水	有光	中州は遊水池としての機能保全		中流 (中州)	中州は遊水池としての機能を保全		
152	H-11	第3回	H 治水	泉	全体の洪水期水位を下げるのに朝酌川合流下部の川幅及び水深が重要と考える		下流	洪水時の水位を下げるためには、朝酌川合流点付近の川幅と水深が重要なポイントだと思う	大橋川の拡幅で宍道湖の水はけを良くし、宍道湖の水位をおさえ、洪水をまちに入れないことが重要です。	
153	I-1	第2回	I まちづくりと市民意識	後藤	治水やそれに伴う様々な議論をふまえ、それに関わる事だけでなく、このまち全体がどうあるべきかを考える機会になれば良い		全体	治水事業を契機に、松江の魅力を高めるためにこのまち全体がどうあるべきか市民全体で考える機会になればよい	市民の皆様へ情報提供や意見聴取を積極的に行うとともに、本委員会の運営や市民意見交換会の開催方法を工夫することにより市民意識の向上に努めます。	
154	I-2	第2回	I まちづくりと市民意識	後藤	必ずしも市民全体が宍道湖・大橋川周辺の景観を重要視しているとはかぎらないと思う。今回の課題をチャンスととらえ、市民意識の向上につなげることが大切		全体	必ずしも市民全体が宍道湖・大橋川周辺の景観を重要視しているとは限らないと思う。今回の課題を市民意識の向上につなげることが大切		

第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果 【大橋川周辺地域のまちづくりに対する想い・意見「意見一覧」】

No	意見ID	出された回数	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
155	I-3	第2回	I まちづくりと市民意識	後藤 後藤	我々が真にほこれるまちにするために！宍道湖や大橋川をどのように利用するのか 引き継いできた文化や景観だけでなく、今生きる人々の作り上げるものも重要		全体	宍道湖や大橋川の整備では、市民の意見を反映させ本当に利用されるものを作ることが重要	市民の皆様へ情報提供や意見聴取を積極的に行うとともに、本委員会の運営や市民意見交換会の開催方法を工夫することにより市民意識の向上に努めます。	
156	I-4	第3回	I まちづくりと市民意識	飯野	まちづくりにはビジョンが必要（松江のまちのなりたちを調べなおす必要があるのでは？）		全体	まちづくりのビジョンを持つべきである		
157	I-5	第3回	I まちづくりと市民意識	飯野	まちなみに対する「哲学」と「ある種の合意」がとても重要（京都、木屋町あたり）		全体	街並みに対する「哲学」と「ある種の合意」が重要		
158	I-6	第3回	I まちづくりと市民意識	泉	長期的な展望の許、ゾーニングを。市民サイドでの合意を確立しておく事が大切		全体	長期的な展望に立ったまちづくりのゾーニングについて、市民合意を確立することが大切		
159	I-7	第3回	I まちづくりと市民意識	桑子	オープンな意見の集約		全体	計画づくりにはオープンな意見集約が必要		
160	I-8	第3回	I まちづくりと市民意識	桑子	若者・女性の参加		全体	計画づくりには若者・女性の参加が必要		まちづくりについて地域の皆様の情報提供や意見交換を通じて意見を積極的に求めていきます。
161	I-9	第3回	I まちづくりと市民意識	飯野	各年代層の意見を集める必要はないのか（議論の進め方）		全体	計画づくりには各年代層の意見集約が必要		
162	J-1	第2回	J めざすべきまちのイメージ	岸井	中海とのつながりを意識できるように一体の空間として扱う	地域的に見ると、出雲から松江から米子までが一体となって戦うべきだと思っております。それをつないでいるのが大橋川ですから。それを意識しないとダメだと思います。	全体	大橋川を、出雲から米子までのつながりを意識できるように一体の空間として扱う	中海・宍道湖を結ぶ大橋川の周辺まちづくりにあたっては、斐伊川上流から宍道湖・中海に至る流域で形成された広い文化圏との関係を意識することが重要と考えています。 松江市都市マスタープランでは、都市を中心に4つの「都市軸」を考えており、中海・宍道湖を結ぶ大橋川周辺は「自然と文化の創造軸」として位置づけており、まちづくりの基本となると考えています。	資料4(1)
163	J-2	第3回	J めざすべきまちのイメージ	岸井	出雲、松江、米子で多様なシナリオを創る 風土記の物語性を意識できるポイントを共有化する	大橋川を改修するという、100年、200年に1遍ぐらいしかないようなときにまちづくりの何を考えようかと、松江が国際文化観光都市ということで、そのイメージを大切にしながら地域として生き残っていくためには、いろんな意味で人々が訪れてくれることが大事で、それに今回のまちづくりに少しでも寄与した方が良くないかと思っております。ただ、今の松江でリピーターが来るような、そういうシナリオが書けるかということ、やや私は駒が不足するのではないかと思います、周りにもっと良い駒がいっぱいあるのではないかと思います。歴史的な視点から言っても、まず出雲のような全く次元が違う歴史性を持っているし、松江は城下町ということで中世のお城の重要文化財が残ってしまっていて、それがまちのある種のシンボルになっているということも考えたときに、いろんな歴史も実は積層性があるって、いろんなシナリオが書けるはずだと思います。 その多様なシナリオを出雲から松江、そして米子あたりまで行くような一連のもので何本も描いて、それらを描くときに今回我々が手を加えるところで何か手伝えるものがあるのではないのか。それは、例えば今、米子空港と出雲空港と2つここへ来る道があるんですが、僕は今、同じ道を帰るなんてことは本当は余りおもしろくない。だから、飛行機会社の関係もありますから今はそうはなっていないですけど、本当は出雲から入って米子へ抜けて帰る。今度は米子から入って出雲へ出て帰る。そのときに違うシナリオを自分で何回も行き来すると、そういう可能性はあるのではないかと思います。そのためには、例えば風土記の中でこの松江が、松江周辺とかこの持っている資源は何で、出雲の方から来たシナリオで楽しんでいくときに何かあるのかとか、或いは水辺というシナリオができれば、中海と宍道湖と大橋川というような、そういうシナリオを書いたときにここで何ができるのかというような、何か少し大きな、人々が楽しんで頂けるようなシナリオを描いた上で、そこに寄与できるものをこのまちづくりの中でうまく埋め込んでいければ良いんじゃないかという感じがですね。	全体	出雲～松江～米子を一体的にとらえ、多様なシナリオを描いた上で、そのシナリオにどう寄与できるかといった視点でまちづくりを考える		
164	J-3	第3回	J めざすべきまちのイメージ	桑子	米子空港からのアプローチから松江を見る		全体	米子空港からのアプローチから松江を見る		

第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果 【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

No	意見ID	出された回	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
165	J-4	第3回	J めざすべきまちのイメージ	岸井	米子、中海のグループとの意見交換を行う	私は実はあまり米子とか境港の仕事をしたことがないので、自分が解っていないから少し知りたいなということなんですけれど、先程から言っている通り、広域的なシナリオの中で考えた方が良さだろと思うていまして、先程の中州の問題も私自身は環境教育とか、そういうシナリオというのは当然あるだろうなと。これは実は中海の埋め立ての問題もありましたから、そういう意味で環境教育の一環としてシナリオを組めれば、修学旅行生をちゃんとお迎えできるかもわからないし、それに相応しい中州の仕立て方もあるでしょうと。バードウォッチングもあるかもわからないし、水生生物もあるでしょう。そういう意味では、今のような宍道湖・中海全体を通した何かのシナリオを考える時に、良いアイデアが別のところからも出てくる可能性があるから、他の方からも聞いてみたいということでもあります。	全体	宍道湖・中海全体を通したシナリオを考える上で、中海周辺地域の人たちの意見を聞きたい	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
166	J-5	第3回	J めざすべきまちのイメージ	後藤	過去の文化や歴史ではなく、現在に息づく文化もこの先歴史となる様に	先ほどから松江らしさというキーワードが出ておまして、松江らしさとはいろんな歴史とか文化というのがあると同時に、私は今生活しているものも、100年、200年経てば歴史になり、そして根付いていくという意味で、やはり新しいものを創っていくというのも非常に大切なのではないかと考えています。昨日見た大阪の御堂筋のミナミの方ですけれども、新しいまちですけれども、それがおのずと今までは川を背に向けていたのが、どどん川の方に向けていく、そうやってまちが形成をしていく、あのような段階を見ると、そういうのも松江に必要ですし、特に我々若者がそういった活気を持ったまちづくりという意味では、歴史、文化というものを残すのも必要ですけれども、やはり新たな文化、風を吹き込むということも必要なのではないかなと思っています。そういった意味では先ほど言われたように、南側の駅前周辺なんかは、そのようなことも出来るようなまちづくりが考えられるのではないかなと思っています。	全体	過去の歴史や文化を残すことも必要だが、新たな文化を創っていくことも必要		
167	J-6	第3回	J めざすべきまちのイメージ	島田	(付箋なし)	今まで総論的な説明をずっと聞いておまして、非常に松江の歴史とか文化とか、そういう古きよきものを保存するような視点での発言がほとんどだったと思うんですね。ただ一人、後藤委員が新しいものをつくっていかねばいかんじゃないかというようなご発言があったと思いますけれども、私が全般的に今感じておりますことは、そういう古きよきものを大切にするというふうなこと、それはもう当然だと。しかし、そこに何か新しいものが加わらなければいかんと思います。鴨川あの新しい遊歩道も、昔の人が見れば大変近代的なものができていると見るんじゃないかなと思うんですね。松江もそういう、100年後、200年後に、ああ、平成の時代にこういう新しいものができきたんだなあというような新しい歴史をつくる何かを考えると、全般に。ただ古いものだけを拾っておるといようなことでは、私はあまり満足できません。古いものを大事にするということとは当然ですけども、何か平成の時代に、そして今後100年に向けての新しいものをつくっていく。堤防だって護岸だってそういう面があっただいいんじゃないか、そういう基本的な考え方に立っておりますということを追加しておきます。	全体	古いものを大切にすることはだけでなく、新しいものを加えて新しい歴史を作っていくという視点も大切である	松江市都市マスタープランでは「松江らしさ」として「守るべき松江の魅力」「回復すべき松江らしさ」「更新すべき松江らしさ」「創造すべきもの・楽しさ」の4つの要素を定めており、まちづくりを進めていくうえで基本となると考えています。	資料4(1)
168	J-7	第2回	J めざすべきまちのイメージ	宇田	国際文化観光都市にふさわしい特性と安らぎを備えた街づくり		全体	国際文化観光都市にふさわしい特性と安らぎを備えた街づくり	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	資料4(23)

第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果 【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

No	意見ID	出された回数	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
169	J-8	第3回	J めざすべきまちのイメージ	有光	反映、移ろい、余韻など繊細な感覚をささえる土壌	昨日、大阪と京都を見学させて頂き、大阪の川岸に建っている橋も建物も、気質を表していると思いますし、京都に行くと、部分部分の橋のちょっとしたディテールとか色とかも、それぞれの気質を表していると思うんですね。振り返って松江のことを考えますと、松江らしさというのがどういうところにあるのかっていうと、その一つ一つの繊細さとともにある曖昧さとか、余白とか、そうしたことが結構重要な要素ではないのかなという感じが致します。 (気質というのは)私がそういうことにお答えするのが適当だとは思わないのですが、やはりあまり直接的でないという、そして一旦どこかに移って見えてくることを感じたり、例えば水の反映というものも勿論ありますが、音だとか匂いだとか、様々な五感、物質的でない分野のことも大事にする気質じゃないかなと想像しているところです。	全体	繊細さ、あいまいさ、余白などの松江の気質にあった節度のある整備が必要	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
170	J-9	第3回	J めざすべきまちのイメージ	有光	歩行者と舟中、車中の人互いに認識できる距離、スピード		全体	現在ある歩行者と舟中、車中の人互いに認識できる距離感、スピード感を大切に	*	
171	J-10	第3回	J めざすべきまちのイメージ	丸	(付箋なし)	今までに出されたご意見はすべてそのとおりで、尤もだと思んですが、ただ私が全体の位置付けという点でよく考えなければならないと思うのは、上流部、中流部、下流部、それぞれの生かし方によって総合的に、松江全体としての親水性、あるいは商業活動、市街地の問題、歴史・自然・風土の生かし方、そういうことのバランスを考えてやっていかないと、今議論がありますように上流部のところで親水性も、風景・歴史の保存も、それから中心市街地、観光の有効なスポットとしての生かし方も、何もかもを上流部でやろうというような考え方で今の大橋川の改修問題に取り掛かっていると、これはちょっと奇妙なことになっていくんじゃないかということを感じているんです。	全体	何もかも上流部でやろうとするのではなく、上・中・下流それぞれの特性をふまえ、バランスの取れた整備を考える必要がある	上、中、下流の右岸、左岸それぞれが異なる特性をもっており、本委員会でゾーニングを行い、それぞれの特性を明確にしていきたいと考えています。	
172	J-11	第3回	J めざすべきまちのイメージ	木幡	百年に一度の大計(治水・防災)と日常のいやし空間(親水性)を明快に分けて考えること	水が出た時には親水性のあるところは水に浸かれば良いわけで、それから100年に1度のいわゆる洪水対策というのは、さっき布野先生から面白いご提案があったんですけども、本当に100年或いは150年に1度の大水害のときに、どこまでやらなきゃいけないのかっていう疑問というか不安というものは市民の間に結構まだ根強いものがあると思うんです。そこら辺をどういうふうに解ってもらえるように説明するのかというのがこの計画の目的があるような気がするんで、そういうことを言わずもがなのことですがそれでも書いたんです。	全体	親水性の創出と洪水対策とは分けて考える	平常時の親水性及び洪水時の市街地への安全性の両立を考えた河岸の形状を考える必要があり、その形状等については本委員会や地域の皆様の意見を踏まえて進めていきます。なお、大橋川改修計画は2日間雨量で399mmとし、昭和47年7月洪水の実績降雨量に対して1割り増し程度の雨量を想定しています。	
173	J-12	第2回	J めざすべきまちのイメージ	島田	日本一きれいな水の都とする		全体	日本一きれいな水の都とする	*	
174	J-13	第3回	J めざすべきまちのイメージ	後藤	五感で感じる事のできるまち		上流	五感で感じる事のできるまち	*	
175	J-14	第2回	J めざすべきまちのイメージ	岸井	街区単位で考えたい		上流	街区単位で考えたい	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
176	J-15	第3回	J めざすべきまちのイメージ	丸	中心市街地、観光地の商業的スポットの中核的位置づけができるように。		上流	上流部においては中心市街地として既存の商業集積や観光スポットの集積を活かしたまちづくりを進める	上流・中流・下流又は右岸・左岸それぞれが異なる特性をもっており、今後ゾーニングを行い本委員会で議論を行いながら、それぞれの機能を明確にしていきたいと考えます。	
177	J-16	第3回	J めざすべきまちのイメージ	木村	川に面した街づくり(堂島川2班19)		上流	川に面した街づくり	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	

第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果 【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

No	意見ID	出された回数	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
178	J-17	第2回	J めざすべきまちのイメージ	飯野	公共交通優先のまち	移動手段の問題は、やっぱりどこか考えておく必要があるのかなというふうに思っていて、水のまちです。水上を使うということも当然あるんですが、やはり先ほど回遊性ということなんかを考えると、このまちというのは、できるだけ自動車交通を排除するというような方向性を持っていくことが長い目で見たときには必要なのかなと思っています。もともと城下町というのは、車の移動というのは不便にできているわけですね。それがまた城下町の魅力でもあるわけですから、そういったものを活かしていくためには、公共交通というものをつくっていくということが重要なかなと思っています。	上流	城下町の魅力を活かす上でも、自動車交通を排除し、公共交通優先のまちづくりを行うことが重要	現在松江市公共交通体系整備計画を策定するため、松江市公共交通体系整備計画策定委員会で検討されています。	
179	J-18	第3回	J めざすべきまちのイメージ	皆美 皆美	展望の変化。10年間ぐらいとぎれるのではないかな。 橋（大橋、新大橋）の架け替え後の後背地、京町、東本町、白潟本町、伊勢宮町等の街づくりは如何なる展望か。架け替え中の両岸の経済的変化。	今度のこの大橋川の治水事業は、川端の変化、堤防の問題ですが、それと大きなのは松江大橋と新大橋の2つの橋が架け替えられるということです。それで、一つの橋を架け替えるにしても五、六年かかるだろうと思います。二つの橋で10年もかけられると、その間橋の両側、東側、南側に展開する、例えば京店、東本町、或いは伊勢宮、白潟本町の商店街、そこに多くの経済活動をしてる店舗もたくさんあるんですが、そういったところがどういふふうになっていくのかと。それならば、将来架け替えたらそこら辺のゾーニングというんですか、展望は一体どういふふうに向付けていくのかと、そうしないとイエスもノーも、何かそこら辺で止まってしまうというふうな感じがしておるんですけども。	上流	大橋・新大橋の架け替えに伴う周辺商店街への経済的影響と工事後のまちづくりの展望を明確にしておく必要がある	大橋・新大橋の架け替えに伴う仮橋の設置を含めた工事時の交通対策並びに市民生活等に与える影響については、大橋川周辺のまちづくりの骨格が固まった段階で、国土交通省が主体となって検討し、本委員会をはじめ地域の皆様に説明する予定です。	
180	J-19	第3回	J めざすべきまちのイメージ	木幡	上流部左岸は背後地の東本町を含め、広域でとらえた街づくりをデザインした方がわかりやすい		上流(左岸)	上流部左岸は背後地の東本町を含め、広域でとらえた街づくりをデザインした方がわかりやすい	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
181	J-20	第3回	J めざすべきまちのイメージ	丸	お城周辺、堀川沿岸を中心にした橋北地区の風情を尊重。	橋北で尊重すべきものは、やはりお城と堀川、それから今のカラコロ広場とか、カラコロ工房とか、その辺りの京店を中心にした古い、食の文化も楽しめるような市街地。そういった意味で、橋北の古いものと文化的なものを尊重していると、これが松江らしさの非常に大きな根源だという認識です。	上流(橋北)	上流の橋北は松江城や堀川を中心とした古いものや文化的なものを尊重した整備が必要	松江市都市マスタープランでは「松江らしさ」として「守るべき松江の魅力」「回復すべき松江らしさ」「更新すべき松江らしさ」「創造すべきもの・楽しさ」の4つの要素を定めており、まちづくりを進めていくうえで基本となると考えています。また、都市を中心とした「都市軸」を考える中では、「松江らしさ回復軸」、「自然文化の創造軸」が基本となると考えています。	・資料4(1)
182	J-21	第3回	J めざすべきまちのイメージ	丸	橋南地区は新しい都市発展地域。	橋南はどうかと言いますと、かつては橋南は白潟本町、天神と、庶民の民間活動、商業的活動の中心地であったんですが、今や全く見る影はなく、むしろ松江の駅の高架に変わったということ、それから南側にいろいろと新しいビルも出来てきて、新しい都市の、しかも県庁所在地の発展の象徴的な場所ですから、この橋南の発展ということについては、そういう新しい都市の発展に相応しいような形のことを考えていく必要がある。	上流(橋南)	上流の橋南は都市的発展にふさわしい整備が必要	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
183	J-22	第3回	J めざすべきまちのイメージ	木幡	上流部右岸は拡幅で新しい街づくりになるが、左岸と似た(古い)イメージが、全く新しいニュータウンか迷います		上流(右岸)	上流右岸は新しいイメージにするのか古いイメージにするのか検討が必要	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
184	J-23	第3回	J めざすべきまちのイメージ	岸井	松江城下へのエントランスポイント		上流(南側)	松江城下へのエントランスポイント	(今後本委員会での議論が進展した段階で、コメントしたいと考えています。)	
185	J-24	第3回	J めざすべきまちのイメージ	島田	中の島を撤去して水上スポーツ空間を作る	私は、中の島は可能であれば撤去して、そこへもう少し広い水面を作って水上スポーツ、高校レガッタとか大学レガッタとか、いろんな全国大会規模の競技が出来たりするような広場、水面にしたらどうだろうかと思いません。松江の観光宣伝にもなるし、また客を呼び込むことになりやすから、少し新しい面も入れた方が良いんじゃないかと。みんな保存ばかり言っているんですけど、先ほども申し上げましたけれども、新しい歴史も創ったら良いと思うんですよ。	中流(中の島)	中の島は可能であれば撤去し、広い水面として水上スポーツの世界大会、全国大会が開催できるようになり、観光と結びつけて地域活性化を図る	治水と環境の両面に配慮した計画により、中の島は現在の約1/3の面積を残す計画としており、水際のヨシ等の植物や生物の生息生育場の保全が可能となっています。	

第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果 【大橋川周辺地域のまちづくりに対する思い・意見「意見一覧」】

No	意見ID	出された回数	テーマ	記入者	付箋記入内容	発言内容	意見の示す場所	意見の要旨	行政・河川管理者のコメント	関連参考資料
186	K-1	第3回	K 交通	皆美	松江大橋の南側に水上交通の基点を作ってほしい		上流 (右岸)	大橋の南側に水上交通の基点を作ってほしい		
187	K-2	第3回	K 交通	丸	橋南、新大橋とくにびき大橋の中間地点に設置する船着場について、道頓堀川にある湊町リバープレイスの船着場の状況がベストの先例と考える		上流 (右岸)	右岸側、新大橋～くにびき大橋間の船着場は、湊町リバープレイスのようなものが良いと思う		
188	K-3	第3回	K 交通	岸井	水辺へのアプローチポイント	先ほどお話しした一つのシナリオが水辺を楽しむという方たちへのシナリオで、その方たちに対して実は2カ所貼ったんですけど、1カ所は駅から真っすぐ出てきたところの大橋川のところです。そのところはやはり一つ考えるべきポイントだろうと思っています。もう一つは白潟公園のところにあります漁港のようなあの風景ですね。あそこはもう少し考えるべきポイントではないかと。そういう水を楽しむ人にとって大事なポイントは幾つかあるだろうなあと。更に言わせて頂くと、ゆっくり楽しむ人であるならば、空港から船で入ってくれば良いわけだし、空港から急いで来ても、その船のところへまずバスを一旦停められるようにして、そこから船に乗りかえて行くという手もあるし、幾つかそういう船を使うというポイントと、バスとか何かの結節点を考えることが必要だろうというふうに思います。	上流 (右岸)	松江駅から北へ出た大橋川のところで白潟公園付近の舟溜まりのところは水辺へのアプローチポイントとして、さらには水上交通への結節点として考える必要がある	松江港については現機能の確保を前提に、場所等については、港湾施設利用者及び地域の皆様の意見を踏まえながら本委員会で検討していただきたいと考えています。	
189	K-4	第3回	K 交通	丸	第五大橋からくにびき大橋までのハイウェイ	先ほど意見は申し上げたところですが、またボードにも貼りましたけれども、私は中州は広大な森林公園として生まれ変わらせるとというのが一番適切な方法ではないかと思えます。もちろんそうした後、都市型の一つの広大な森林公園という中にはもし進出する起業家があられば、山陰に全くない動物園をその森林公園の中に配置をして、それから第五大橋からくにびき大橋まで、この第五大橋は現在の松江の南側に通っております。既に完成している高速道路から直接第五大橋に下りられる設計になっておりますが、そこで下りてきた車が森林公園の大橋川に隣接する部分にハイウエーを作って、一気に第五大橋を下りてくにびき大橋のたもとまで、全く何の障害物もなくハイウエーで松江の中心部分に来れるようにすると。同時に、そのハイウエーの大橋川寄りのところは、先ほど申しましたように最も親水性を配慮して、芝生もあってそれでアベックの皆さんが安心して喜んで座れるような場所がずっと終始その1,000mぐらいの間にあるという状況にして、それから森林公園の中にはニューヨークのセントラルパークのようにジョギングもできるし散策もできるし、そういう曲線の遊歩道をずっと作っていくという、そういう形で活用するのが将来の松江市の発展を考えた上で一番良いのではないかと思います。	中流 (左岸)	第五大橋から松江の中心部に直接つながるハイウェイをつくる	第五大橋道路から松江中心部へのアクセスは、西尾インターから県道本庄福富松江線で確保することとしています。	・資料4(24)
190	K-5	第3回	K 交通	太田	中流部南側には道路があった方が良くないか、検討が必要	南側のことを特に書こうとすれば、あそこを整備するとやっぱり上に道路が必要じゃないかなということを書いたので書きました。もちろん管理用の道路とかはあると思いますが、管理だけではなく農道といいますか、農業、あそこどころ、ハウスとかいろいろありますもんですから、そういう道路も必要かなということ、それは検討した方が良くないかということを書いてみました。	中流 (右岸)	中流右岸には道路が必要だと思う	中流部右岸は、現在道路が未整備のため道路と接していない土地があります。第五大橋の架橋に併せ側道が整備されるので、それと連携した大橋川沿川の道路整備を行い、幹線道路となげることにより、土地利用の向上を図ることが可能です。	
191	L-1	第2回	K 地域コミュニティ	太田	生活基盤の維持	その地区は、集団的に移転が必要な地区になるんですね。それで農家ですから、それで集落をどこへどう移転するかということの中で、生活基盤のことを十分に配慮してあげなければならないと思ひまして、そこに書いてみたところです。	下流 (左岸)	集団移転が必要な地区では、生活基盤の維持に配慮が必要	集団移転が必要な地区については、住民の皆さんの意向をよくお聞きし、生活基盤の維持が図れるように努めていきます。	